

平和宣言

我々の霊的根源において、そして歴史のもっとも古い頃から、我々クエーカー教徒は、非暴力を、紛争の解決と平和実現の手段として選んできた。我々はすべての人に神を見出す、ゆえに、殺人又は殺人幫助をすることはできない。

我々は、自らの平和的解決発見に向けての創造的エネルギーと手段を身に着けるとき、すべての紛争は非暴力で解決されると信ずる。我々の礼拝体験から、我々が神の導きに耳傾けるとき、もっとも意見の割れる問題であっても解決されると知る。その沈黙から、以前には気づかなかった新しい道が我々の前に開かれる。

我々は敵を持たない。我々はすべての人が変わることを出来る可能性を持つと信ずる。平和実現には、自己犠牲、そして恐れを乗り越え、境界を渡ることが課せられる。“テロ戦争”と公言される、いわゆる“先制戦争”の時代において、我々は戦わない。

非暴力は、積極的手段である：反対者との対話、不正当局に抵抗する市民運動などの形をとるか、或いは法システムを通じての忍耐強い努力になることもある。非暴力が最も効果的にされるためには、早期の介入が必要である。偏見、偏狭、経済的不均衡、資源支配、その他の不正は、敵意がむき出しにされるところまで拡大される前に、根絶されなければならない。紛争の後には特定の対策がなされて、インフラストラクチャーの再建、将来の紛争再発防止のための関係修復がなされなければならない。

非暴力は、常に即座の正義達成に至るわけではない。戦争時には、罪の無い一般市民が傷つく。非暴力がもっとも有効的なときであっても、紛争が回避されたため、しばしば、そのことが認識されない。例えば、もし、アフリカグレートレイクイニシアティブの静かな辛抱強い働き一生き残りの人たちと、大量虐殺執行者たちを幾度もの精神的な外傷と癒しのワークショップにおいて和解させた一が実際に、ルワンダとグルンジでの暴力再発を防止したことかどうかは、知るよしもない。我々はそれが個人個人を変えたのだと知る。

現代の戦争状態は、“付随的損害”とされる罪の無い犠牲者に被害を負わせ、市民全体が依存するインフラストラクチャーを荒廃させ、環境に害を、また戦場が農地に戻された後も長期に渡って残留する地雷、減損ウラン、その他危険物を撒き散らす。さらに、戦争は、人々を殺人者として訓練する。そしてそれは、被害を受けたものと被害を負わせたものに、精神的な深い傷を残す。徹底的に信頼を壊し、人間関係を修復不能にまで破壊する。

墮胎戦争について声を上げることは、一見ばかりげているか、非現実的かもしれない。私たちの祖先も、奴隷制廃止に着手したとき、その努力を嘲笑された。しかし、彼らは成功した。まず、自分たちの Society から廃止を、そして他の人々と共に、国でさらに世界での廃止のため努力した。同様に、我々は、我々の生活のすべての局面から：家族、コミュニティでの犯罪への対応、地球環境管理、及び外交政策において、暴力を追放することに専心する。我々の目標は、今この地球上に、平和なる神の王国を生み出すことなのである。

セントルイス月例会
クエーカー教徒フレンズ会

アメリカ、ミズーリ州セントルイス
2006年2月12日